



▲お祝いの席に笑みをこぼす白石氏

偉人たちの戦



～人生は誰しも戦、勝ち旗は自分で掲げる～

東秩父村から後世へ受け継ぐべき偉人の歴史をご紹介します。第2弾は「白石英雄氏」です。白石氏は、今の東秩父村の礎を築かれたとして、名誉村民ともなられた方です。

このページは、現在を伝達する「広報」から、過去をのぞき見る「広報」に…今を生きる人へ、自分たちの今の暮らしを作ってくれた「善き戦を戦われた」方たちを知ってください。

東秩父を戦場とした偉人たちへ、その栄光をたたえて。

—白石英雄氏—

今回から3回にわたり紹介するのは、現在の東秩父に既存する施設のほとんどを作ったといっても過言ではない「白石英雄氏」です。また、「東秩父村」の基本となる施策も多く行いました。3回にわたり紹介を行う1回目の今回は、その人物像に迫ります。

第1章 白石英雄氏の生涯

白石英雄氏は、大正13年5月に白石地区に生まれ、昭和47年9月、48歳の時に東秩父村長となり5期20年の長きにわたりその職責を担いました。

その間、教育の振興、福祉の向上、農林業の振興、環境行政の向上等様々な施策を行い、白石氏の功績は今の村の体制にも引き継がれ、皆さんの目に映る「現在の村の形」を作られてきました。

○戦争と白石氏

白石氏は昭和19年、20歳の時に現役兵として近衛工兵第2連隊補充隊第2中隊に入隊し、千葉県に配属となりました。工兵隊では、今でいうところの「土工」を行っており、力があつたため活躍されていたそうです。また、通信兵も行い、政府の放送をいち早く耳に入れて感慨深いものがあつたようです。兵役が終わる昭和20年まで外地には行きませんが、東京大空襲の際の悲惨な光景は決して忘れることができません。

でした。

○秀でた才能・性格

白石氏は、頭脳明晰だけでなく運動にも長けており、剣道が得意で、東秩父村役場で剣道部を作ったくらいでした。

性格は、明るく温厚。家にいるときに怒ったことを見たことがないくらい、人にやさしい人でした。反面、自らには厳しく、誠実にまっすぐな性格から、自分に対しての不正を全く許さなかつたそうです。しかし、人のためならば、手助けを惜しまないといった面もありました。

○趣味趣向

お酒は大好き、嗜まない日はなく、昔は役場の職員を連れてよく呑んでいたとの話です。食べ物では、お肉も好きだったとのこと。剣道などの運動だけでなく、文学にも興味はあり、本はよく読み、特に歴史書を好み読まれていたそうです。

○みんなのサンタさん

余談ではありますが、村出身の30代、40代の方に白石氏の思い出を聞くと「サンタさん！」と答える人が多いです。これは白石氏が、クリスマスに村内保育園のおゆうぎ会に、本格的なサンタクロースの格好をしてプレゼントを配ってくれていたからです。まだ、サンタクロースを信じているであろう子どもたちに「村長さん」とぼれてしまっていたのはいかがなところではありますが、帽子と髭の間から見える、あの優しい笑みは確かに私たちの知っている村長さんそのものでした。

白石サンタクロースは、村政だけでなく子どもたちにも素敵な贈りものをたくさんしてくれました。

少し脱線してしまいました。白石氏の人物像は判りいただけでしょうか。白石氏をご存知の方も多くいる中で、「そんなこともあつたのか！」と新発見があつたらうれしいです。第2回、3回は、政治面に触れていきます。